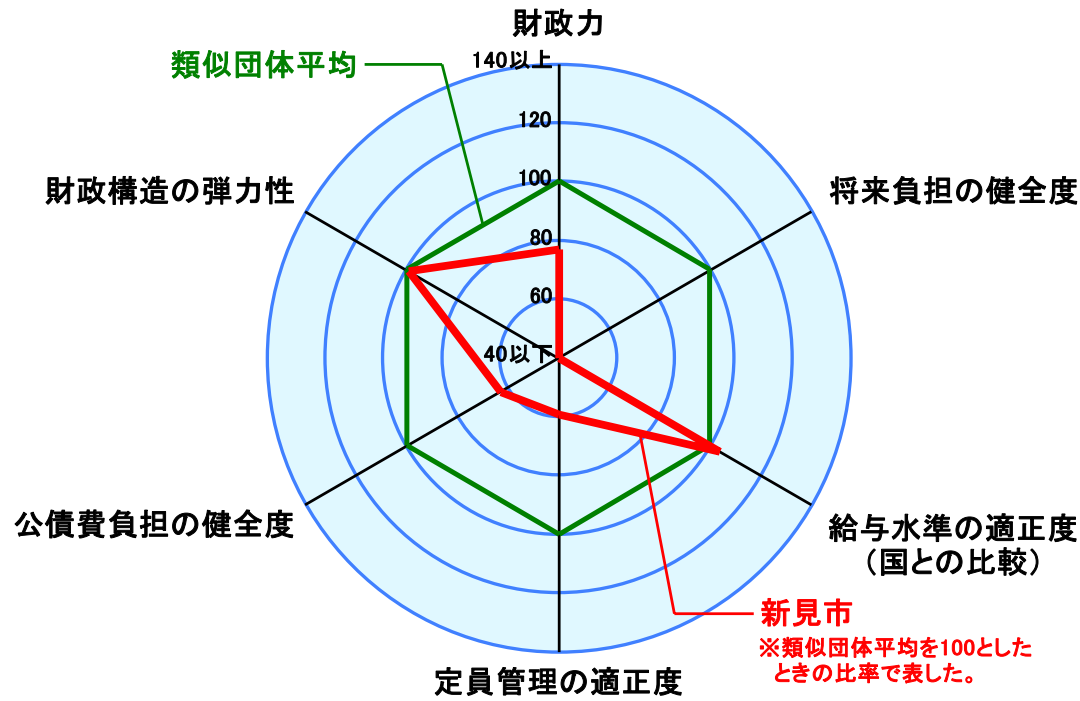
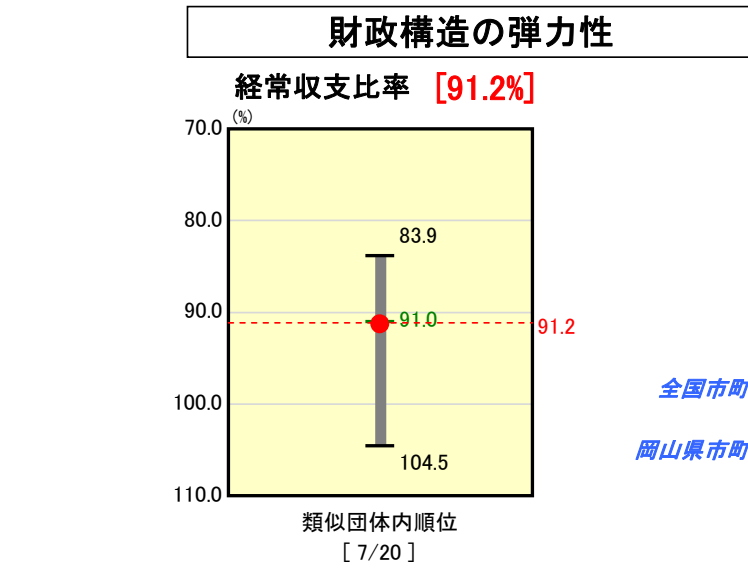
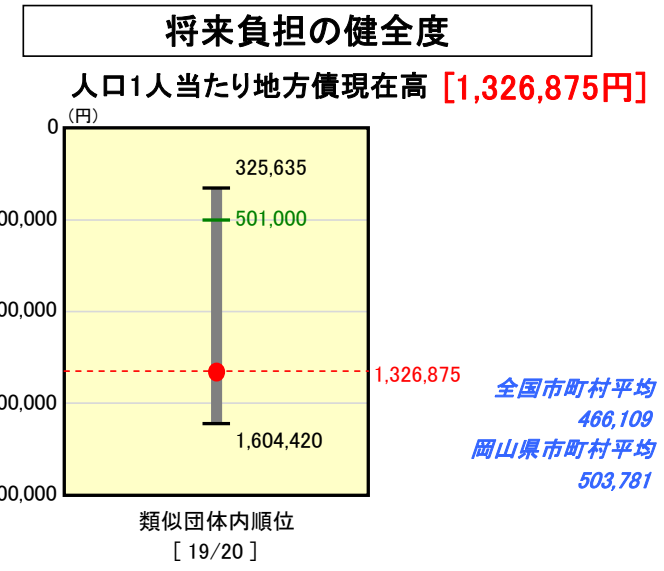
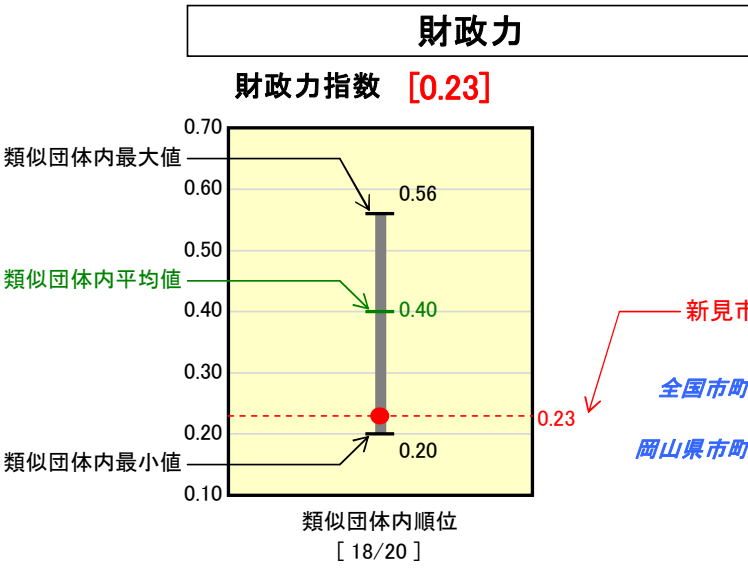


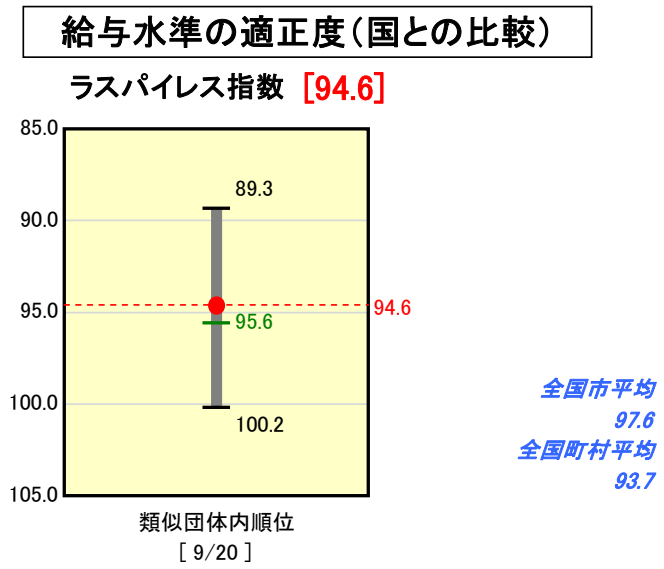
市町村財政比較分析表(平成16年度決算)

岡山県 新見市

人口	36,821人(H17.3.31現在)
面積	793.27 km ²
歳入総額	31,606,104 千円
歳出総額	30,262,729 千円
実質収支	1,122,478 千円



※類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を88のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。



分析欄

- 財政力: 山間部に位置し、企業が少なく、税収が少ないため低くなっています。
 - 経常収支比率: ほぼ平均値ですが、高い数値ですので、集中改革プランに掲げた定員適正化による人件費の削減、事務事業の見直しなど行財政改革に取り組み、経常経費を削減することにより、改善する必要があります。
 - 起債制限比率: 一部事務組合の起債を全て引き継いだため、平均値を大きく上回っています。今後とも交付税算入等の有利な地方債の活用に努め、繰上償還や借換など適切な地方債管理を行う必要があります。
 - 人口1人当たり地方債現在高: 交付税算入率の高い辺地債・過疎債などを多く借り入れているため、平均値をかなり上回っています。将来負担バランスを細かく確認し、厳重に監視していく必要があります。
 - ラスパイレス指数: 合併に伴い各種手当の見直しを行うなどにより、平均値を下回っていますが、さらに給与の適正化に努めることにより、将来的な人件費の抑制に注意を払う必要があります。
 - 人口1000人あたり職員数: 市町合併により一部事務組合職員(消防、短大、健康管理センター等)も加ったため、平均値を大幅に上回っています。新規採用の抑制、退職勧奨などにより計画的な職員数削減を行う必要があります。
- ★これらの数値を改善し、将来に渡って安定的な住民サービスを実現させるため、平成20年度までに108人(短大、消防を除く△20%)の職員削減を含め、事務事業を見直し、経常経費を抑えることとしています。

